

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																											
水戸電子専門学校		昭和61年4月1日		渡辺 修身		〒 310-0812 (住所) 茨城県水戸市浜田2-11-20 (電話) 029-221-8738																																											
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																											
学校法人八文字学園		昭和57年4月1日		八文字 和宏		〒 310-0812 (住所) 茨城県水戸市浜田2-16-12 (電話) 029-221-8800																																											
分野	認定課程名		認定学科名			専門士		高度専門士																																									
工業	工業専門課程		情報メディア学科			平成17年文部科学省 認定		-																																									
学科の目的		グラフィック、Web、映像、DTP、アニメーションなど各種クリエイティブ関連企業、および家電・PC販売量販店、ネットワーク関連企業への就職を念頭に、当該分野の知識と技術の習得を目指す。																																															
認定年月日		平成26年3月31日																																															
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義		演習	実習	実験	実技																																									
2年	昼間	1800	766			1034																																											
生徒総定員		生徒実員		留学生数(生徒実員の内)		専任教員数		兼任教員数																																									
80人		28人		0人		4人		2人																																									
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日				成績評価	■成績表: 有																																											
						■成績評価の基準・方法																																											
						評価の基準: A/B/C/Dの4段階評価、Dは不可となる																																											
長期休み	■夏 季: 7月25日～8月25日 ■冬 季: 12月23日～1月7日 ■春 季: 3月1日～4月9日				卒業・進級 条件	卒業要件: すべての科目においてD(不可)のないこと 卒業に必要な総授業時間数 1800時間																																											
						試験、課題提出、授業態度等の総合 評価																																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 特別授業の実施、学校外課題など 長期欠席者へは、教職員全員で協議、補講などで対応				課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 校外清掃などボランティア活動																																											
就職等の 状況※2	■主な就職先、業界等(令和5年度卒業生) テクニカル/家電量販店、PC販売・サポート店、カスタマエンジニア、事務など、デザイン/印刷会社、介護老人保健施設など ■就職指導内容 就職指導部および担任による面接指導や企業情報指導など ■卒業生数 16 人 ■就職希望者数 14 人 ■就職者数 14 人 ■就職率 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 87.5 % ■その他 ・進学者数: 0人 (令和 5 年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)				主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■サークル活動: 無																																											
						■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)																																											
						<table><tr><td>資格・検定名</td><td>種別</td><td>受験者数</td><td>合格者数</td></tr><tr><td>AFT色彩検定2級</td><td>③</td><td>10人</td><td>7人</td></tr><tr><td>CGクリエイター検定</td><td>③</td><td>10人</td><td>7人</td></tr><tr><td>Webデザイナー検定</td><td>③</td><td>5人</td><td>5人</td></tr><tr><td>ITパスポート</td><td>②</td><td>5人</td><td>1人</td></tr><tr><td>家電製品アドバイザー</td><td>③</td><td>5人</td><td>2人</td></tr><tr><td>日商リテールマーケティング</td><td>③</td><td>5人</td><td>2人</td></tr><tr><td>Microsoft Office Specialist</td><td>③</td><td>12人</td><td>12人</td></tr><tr><td>ビジネス能力検定ジョブパス</td><td>③</td><td>11人</td><td>8人</td></tr><tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	AFT色彩検定2級	③	10人	7人	CGクリエイター検定	③	10人	7人	Webデザイナー検定	③	5人	5人	ITパスポート	②	5人	1人	家電製品アドバイザー	③	5人	2人	日商リテールマーケティング	③	5人	2人	Microsoft Office Specialist	③	12人	12人	ビジネス能力検定ジョブパス	③	11人	8人				
						資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																								
						AFT色彩検定2級	③	10人	7人																																								
						CGクリエイター検定	③	10人	7人																																								
						Webデザイナー検定	③	5人	5人																																								
						ITパスポート	②	5人	1人																																								
						家電製品アドバイザー	③	5人	2人																																								
						日商リテールマーケティング	③	5人	2人																																								
Microsoft Office Specialist	③	12人	12人																																														
ビジネス能力検定ジョブパス	③	11人	8人																																														
※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等)																																																	
■自由記述欄 (例) 認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等 ①茨城県芸術祭美術展覧会デザイン部門11名入選 ②MOSエキスパート9年連続称号取得 ③情報セキュリティマネジメント試験(国家試験) 1名合格																																																	
中途退学 の現状	■中途退学者 1 名 令和5年4月1日時点において、在学者28名(令和5年4月1日入学者を含む) 令和6年3月31日時点において、在学者27名(令和6年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 精神的な不安(心療内科の通院等)、学習意欲の減退など				■中退率 4 %																																												
	■中退防止・中退者支援のための取組 入学時と入学後に様々な機会を利用し面接を実施しケアを図っている。また、中途退学者に対し、就職や仕事に関するアドバイスを適宜行っている。																																																
経済的支援 制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ※有の場合、制度内容を記入 特待生制度、ファミリーサポート特典 による減免				非給付対象																																												
	■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																																																
第三者による 学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無 ※有の場合、例えば以下について任意記載																																																
	評価団体: 受審年月: 年 月				評価結果を掲載した ホームページURL																																												
当該学科の ホームページ URL	https://www.mito.ac.jp/technology/																																																

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業者の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進学状況等について記載します。

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

全クリエイティブ領域に関して【企業側から】・業界における変化とそれに対する対応を聞き取る。・先進の機械設備や制作にかかわるソフト的なツールの状況を聞き取る。・業界動向変化の予測を聞き取る。・教育関連分野での情報を聞き取る。【学校側から】・カリキュラムの内容と指導法を企業に伝える。・研修等により、新しい業界動向を見聞した際は、それを企業側に伝える。・学生側からのカリキュラムや指導法につき要望があった場合、それを企業に伝える。最終的に、上記を踏まえつつ、協議により教育課程を編成する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

年2回開催する当委員会においては、前回の指摘事項に対する改善策の実施状況を回答するとともに、新たな取り組み等を報告する。当回において新たに指摘(審議)された内容は、後日学内にて教務委員会(教頭および学科長を中心としたもの)を開き検討、学校長の承認のもと採用する。その後カリキュラム内容を変更、実施し、その状況を次回の報告内容として当委員会に挙げる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
三瓶 哲也	JPC株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	③
大森 達也	アイ・イー・シー株式会社 取締役	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	③
武井 篤	株式会社 新日東 営業部	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	③
掛田 達也	一般社団法人 茨城県情報サービス産業協会 理事	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	①
坂 大樹	茨城デザイン振興協議会 副会長	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	①
吉田 直輝	株式会社ピーシーデポコーポレーション	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	①
渡辺 修身	水戸電子専門学校 学校長	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	—
相田 慎介	水戸電子専門学校 教頭・情報処理学科長	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	—
平松 浩幸	水戸電子専門学校 教頭補佐・情報システム学科長	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	—
石田 秀郎	水戸電子専門学校 情報メディア学科長	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和5年8月23日 14:00～15:30

第2回 令和6年3月22日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

科目数が多く、幅広い分野であるという意見をいただく。学生募集の見通しに関する意見もいただいたが、結果については次回の教育課程編成委員会にて報告する予定である。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

Webサイトがつくれる実際について基本事項から学び、次にサイト設計・デザインを実践する中で応用力を養うことを基本方針とする。仮想企業のサイト制作を行い、業務フローを確認しながら手順を学んでいく。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

グループに分かれ、仮想企業のサイト制作を実践する。その中で、社会人としての①「マナー」②「コミュニケーション」③「プレゼンテーション」④「成果と貢献度」に関してA・B・C・Dの4段階評価をしてもらう。総合評価を学内講師と協議し、成績へと反映する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
Web制作Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	1・2年の合同実習。Webデザインの知識と技術を習得し、最終的に各自Webサイトを完成させる。	株式会社 スタジオサカ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人 八文字学園 教職員研修規定 第1条第2号」に基づき、計画的に教員に対する研修を行う。本学科では、会員である「社団法人茨城県情報サービス産業協会」主催によるセミナーへの年1回以上の参加により、専門分野の技術力維持・向上を図る。また、「（一社）茨城県専修学校各種学校連合会」およびその他企業・団体が提案する教育者向け研修に定期的・積極的に参加し、特にシステム開発技術の技術継承に活かせる分野の知識・技術力アップ、および教育者としての指導力アップを継続的に図る。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	デザインの「方向性」をきめる特訓。「コンセプト」の表現法、コツと手順	連携企業等:	アドビ株式会社
期間:	令和5年5月25日(木)	対象:	学科教員
内容:	デザイナーにおけるデザインの方向性の決め方に関する学習方法のWebセミナー		
研修名:	WCCCクリエイティブコラボウェビナー『人気アニメを支えるデザイナーの仕事とスキル 2D デザイン編』	連携企業等:	株式会社ワコム
期間:	令和5年9月21日(木)	対象:	学科教員
内容:	アニメを支えるデザイナーの仕事(キャラクター・ストーリー・2D デザイン)や制作テクニックについて解説		
研修名:		連携企業等:	
期間:		対象:	
内容:			

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	最新MOS365試験情報と受験対策	連携企業等:	株式会社富士通ラーニングメディア 他1社
期間:	令和5年8月4日(金)	対象:	学科教員
内容:	MOS 365の新試験の概要における教材概要と学習指導方法に関するセミナー		
研修名:	IT活用で求められるセキュリティ対策	連携企業等:	リコージャパン株式会社 他1社
期間:	令和6年1月10日(水)	対象:	学科教員
内容:	外部への漏洩や持ち出しのリスクに対する防止策に関するオンラインセミナー		

(3)研修等の計画	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名:	RICOH Value Presentation 2024 1.0 DX & GX ～ AI “変化を味方にする次の一手” 連携企業等: リコージャパン株式会社
期間:	令和6年7月1日(月)以降配信予定(オンラインセミナー) 対象: 学科教員
内容:	企業にPCを導入する際の、PCの最新トレンド情報との買い替えにおける準備のポイントや注意点の解説
研修名:	ことはじめオンライン講座 連携企業等: アドビ株式会社
期間:	令和6年度内実施予定 対象: 学科教員
内容:	Creative Cloudメンバーシップに含まれる様々なアプリの使い方を解説
研修名:	オデッセイ統計セミナー 連携企業等: オデッセイ コミュニケーションズ
期間:	令和6年度内実施予定 対象: 学科教員
内容:	企業・教育関連の人材育成を始め、最新の情報技術や検定試験、これからの社会の動向
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名:	INVITE on Web 連携企業等: 一般社団法人全国専門学校情報教育協会
期間:	令和6年度内実施予定(オンラインセミナー) 対象: 学科教員
内容:	IT技術研修や学生指導に関するセミナー
研修名:	オデッセイユニバーシティ 連携企業等: オデッセイ コミュニケーションズ
期間:	令和6年度内実施予定 対象: 学科教員
内容:	企業・教育関連の人材育成を始め、最新の情報技術や検定試験、これからの社会の動向
研修名:	連携企業等:
期間:	対象:
内容:	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1)学校関係者評価の基本方針	
学校の自己評価に加え、企業・業界団体等が委員として参画する学校関係者評価を実施・公表し、組織的、継続的に学校運営を改善する。	
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・教育目標・重点目標・目標達成度
(2)学校運営	運営方針・事業計画
(3)教育活動	教育到達レベル、成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準
(4)学修成果	就職率・資格取得率・退学率
(5)学生支援	学生相談・経済的な支援
(6)教育環境	施設・整備、安全管理体制
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動
(8)財務	学校の財務、予算・収支計画、財務情報公開
(9)法令等の遵守	個人情報、自己評価の実施と問題点の改善
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	
※(10)及び(11)については任意記載。	
(3)学校関係者評価結果の活用状況	
「チーム制作」が多い学科であるため、「目標の共有」「責任の共有」「全員がやるべきこと、やっていることを理解して、それを共有すること」が大切である。また、チームリーダーが自覚を持ち、しっかりと経過を把握することも同じく大切である。以上のようなご意見を受け、職業実践的なチーム制作を行う「テーマ制作」や「デザイン制作実習」に取入、取り組んでいる。	

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年3月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
大森 達也	アイ・イー・シー株式会社 取締役	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	企業役員
坂 大樹	茨城デザイン振興協議会 副会長	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	業界団体役員
武井 篤	株式会社 新日東 営業	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	企業委員
三瓶 哲也	JPC株式会社 代表取締役	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	企業役員
掛田 達也	一般社団法人 茨城県情報サービス産業協会 理事	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	業界団体役員
吉田 直輝	株式会社ピーシーデポコーポレーション	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年)	企業委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.mito.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校関係者の評価の実施、公表により、適切に説明責任を果たすとともに、関係する企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民による理解と参画を得ながら、自己評価結果の客観性、透明性を高め、学校として目指すべき重点目標を設定し、企業、業界団体、卒業生、保護者、地域住民の連携協力による学校づくりを進めていく。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	情報処理学科の教育内容
(3) 教職員	教職員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援、学内企業合同ガイダンスの実施
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事等(バスハイク、学外レクリエーション、研修旅行、卒業旅行等)
(6) 学生の生活支援	個別面談、三者面談等による協力体制、アパート暮らしの支援
(7) 学生納付金・修学支援	学納金、奨学金や教育ローン
(8) 学校の財務	貸借対照表、収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果報告
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())

URL: <https://www.mito.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報メディア学科／テクニカルマネジメントコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			就職対策Ⅰ	就職するために必要な知識やテクニックを、マナー・コミュニケーション・プレゼンテーションをキーに指導。また、企業研究も行う。	1前	22	1	○			○		○		
2	○			ビジネス実務Ⅰ	ビジネスに必要な知識、マナーなどを習得し、仕事をする上で重要となるコミュニケーション力も培う。また、ビジネス検定試験の取得を目指す。	1前	23	1	○			○		○		
3	○			コミュニケーションⅠ	社会生活をする上で欠かせないコミュニケーション力を養うため、社会情勢や日常生活にからめた諸問題を討論しながら、問題提起～解決の手順を身につける。	1前	23	1	○			○		○		
4	○			生活家電Ⅰ	生活家電製品に関する知識と、製品および顧客に係る法律を学び、生活家電製品アドバイザー資格取得を目指す。	1前	45	2	○			○		○		
5	○			CS・法規	CSに関する知識および関連する法規類の基本的知識を学習。	1前	45	2	○			○		○		
6	○			販売士対策Ⅰ	小売店舗運営の基本的な仕組みを理解し、販売員としての基本的な知識と技術を身につけ、販売業務を行うことができることを目指す。	1前	45	2	○			○		○		
7	○			テクノロジー	ITパスポート取得を目標に、コンピュータの「基礎理論」・「コンピュータシステム」・「技術要素」の知識を修得。	1前	45	2	○			○		○		
8	○			ストラテジ	ITパスポート取得を目標に、「企業と法務」・「経営戦略」・「システム戦略」の知識を修得。	1前	45	2	○			○		○		
9	○			マネジメント	ITパスポート取得を目標に、「開発技術」・「プロジェクトマネジメント」・「サービスマネジメント」の知識を修得。	1前	45	1	○			○		○		
10	○			検定対策Ⅰ	家電アドバイザー検定試験、リテールマーケティング検定試験対策の演習を行う。	1前			○			○		○		
11	○			Web制作Ⅰ	Webデザインにかかわる基礎的知識の習得と、制作ツールの技術習得を目指す。	1前	22	1			○	○		○	○	○
12	○			ワープロソフトⅠ	Microsoft Wordの学習を通して、MOS資格取得のための基礎的知識と技術を学ぶ。	1前	45	1			○	○		○		
13	○			ビジネスソフトⅠ	Microsoft Excelの学習を通して、MOS資格取得のための基礎的知識と技術を学ぶ。	1前	45	1			○	○		○		

14	○		就職対策Ⅱ	就職対策Ⅰの内容を踏まえ、面接指導や各種シートの作成法指導など、後期明けに本格化する就職活動へ向けた、実践的対策授業を行う。	1 後	22	1	○			○		○		
15	○		ビジネス実務Ⅱ	ビジネス実務Ⅰの内容を受け、さらなる知識と、より高い資格の取得をめざす。	1 後	23	1	○			○		○		
16	○		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅠから更に進めて、より難易度の高い内容について考える力を養う。	1 後	23	1	○			○		○		
17	○		生活家電Ⅱ	生活家電製品に関する知識と、製品および顧客に係る法律を学び、生活家電製品アドバイザー資格取得を目指す。	1 後	68	3	○			○		○		
18	○		販売士対策Ⅱ	前期に引き続き、販売・接客技術は勿論、幅広く実践的な専門知識を身につける。「リテールマーケティング(販売士)3級」取得を目指す。	1 後	45	2	○			○		○		
19	○		検定対策Ⅱ	家電アドバイザー検定試験、リテールマーケティング検定試験対策の演習を行う。	1 後			○			○		○		
20	○		P C工学	コンピュータの構造を知識として学習し、更に自信の手によって組み立てを行うことで理解を深める。	1 後	45	2				○	○		○	
21	○		W e b制作Ⅱ	さらなる知識の習得と、制作ツールの技術習得を目指しながら、アニメーションを含む各種コンテンツ制作に必要な知識・技術の習得もめざす。	1 後	45	2				○	○		○	○
22	○		フォトショップⅠ	画像処理で基本となる、フォトショップの基礎的知識と技術を学ぶ。	1 後	22	1				○	○		○	
23	○		イラストレータⅠ	グラフィックデザイン、DTP(デスクトップパブリッシング)で基本となる、イラストレータの基礎的知識と技術を学ぶ。	1 後	22	1				○	○		○	
24	○		ワープロソフトⅡ	Wordの学習を推し進め、Microsoft Office Specialistのスペシャリストレベル取得を目指す。	1 後	45	1				○	○		○	
25	○		ビジネスソフトⅡ	Excelの学習を推し進め、Microsoft Office Specialistのスペシャリストレベル取得を目指す。	1 後	45	1				○	○		○	
26	○		データベースソフト	Microsoft Accessのテーブル・クエリ・フォーム・レポートといった主要機能の基礎から応用、簡単な関数やマクロなどの知識や技術修得を通じて、MOS Access取得を目指す	1 後	45	1				○	○		○	
27	○		就職対策Ⅲ	家電アドバイザー検定試験、リテールマーケティング検定試験対策の演習を行う。	2 前	22	1	○			○		○		
28	○		生活家電Ⅲ	就職活動最盛期の期間。さらなる実践指導を行うため、個別指導の密度を高める。	2 前	45	2	○			○		○		
29	○		簿記会計Ⅰ	簿記の初歩から会計期間内の取引による仕訳を学習	2 前	45	2	○			○		○		

30	○		家電実習	家電製品の知識を固めるため、分解や組み立てを実践し、また、家電製品に関わる動画制作も試みる。	2 前	23	1	○			○		○		
31	○		検定対策Ⅲ	家電アドバイザー検定試験、リテールマーケティング検定試験対策の演習を行う。	2 前			○			○		○		
32	○		プレゼンテーションⅠ	Microsoft PowerPointを学習し、MOS資格取得を目指すと同時に、ビジネスの場で必要なプレゼンテーションの知識と技術を磨く。	2 前	23	1				○	○		○	
33	○		Web制作Ⅲ	ホームページの制作やアニメーションの実制作を通して、学んできた知識と技術をしっかりと定着させる。また、実制作の現場を見学したり、現役制作者の考え方も学ぶ。	2 前	45	2				○	○		○	○
34	○		フォトショップⅡ	フォトショップⅠの内容を踏まえながら、より高度な知識と技術を習得させる。	2 前	22	1				○	○		○	
35	○		ワープロソフトⅢ	Microsoft Office Specialistのスペシャリストを元に、エキスパートレベル取得を目指す。	2 前	45	1				○	○		○	
36	○		ビジネスソフトⅢ	ビジネスソフトⅡで学習したMOS Excelを元に、MOS Excelのエキパート資格取得のための知識と技術を学習。	2 前	45	1				○	○		○	
37	○		自由研究	卒業研究の制作段階において、データベース・Web制作・動画等における各種書類の学生や画面設計等を学習する。	2 前	136	5				○	○		○	
38	○		就職対策Ⅳ	就職内定者へは卒業までにしなければならぬことを指導し、未内定者にはさらなる個別指導を通して内定へ導く。視聴覚教材を使いながら、社会人へ向けての希望を膨らませる。	2 後	22	1	○				○		○	
39	○		生活家電Ⅳ	生活家電製品アドバイザー取得後、AV家電製品アドバイザー資格を取得することにより、「総合家電製品アドバイザー」資格取得を目指す。	2 後	45	2	○				○		○	
40	○		簿記会計Ⅱ	各試算表および決算整理仕訳から精算表・財務諸表までを学習	2 後	45	2	○				○		○	
41	○		検定対策Ⅳ	家電アドバイザー検定試験、リテールマーケティング検定試験対策の演習を行う。	2 後			○				○		○	
42	○		プレゼンテーションⅡ	プレゼンテーションソフトⅠで学んだ基礎知識・技術を元に、実際に企画を作り、それを利き手側にプレゼンテーションする。	2 後	23	1				○	○		○	
43	○		卒業研究	2年間学んできたことの集大成。実際に使用することを目的に、データベースやWebデザイン、動画等にかかわる卒業制作のために必要な知識や技術を習得する。	2 後	247	8				○	○		○	
44	○		Web制作Ⅳ	Webデザイン制作の集大成として、卒業研究と連動させる形で、オリジナルWebサイトをデザインする。	2 後	45	2				○	○		○	○

45	○			フォトショッ プⅢ	イラストレータとの連携を考えながら、で きるだけ多くの課題制作を行う。	2 後	22	1			○	○		○		
合計					45 科目					1800 単位（単位時間）						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：履修したすべての科目においてD（不合格）がないこと		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：試験、課題提出、授業態度等による総合評価でA～Cの評価を得る		1 学期の授業期間	14 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程 情報メディア学科／マルチメディアコース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			就職対策Ⅰ	就職するために必要な知識やテクニックを、マナー・コミュニケーション・プレゼンテーションをキーに指導。また、企業研究も行う。	1前	22	1	○			○		○		
2	○			ビジネス実務Ⅰ	ビジネスに必要な知識、マナーなどを習得し、仕事をする上で重要となるコミュニケーション力も培う。また、ビジネス検定試験の取得を目指す。	1前	23	1	○			○		○		
3	○			コミュニケーションⅠ	社会生活をする上で欠かせないコミュニケーション力を養うため、社会情勢や日常生活にからめた諸問題を討論しながら、問題提起～解決の手順を身につける。	1前	23	1	○			○		○		
4	○			色彩概論Ⅰ	各種デザイン分野で必須となる色彩に関する知識を学習し、「色彩検定3級」あるいは「カラーコーディネーター検定3級」の資格取得を目指す。	1前	22	1	○			○		○		
5	○			検定対策Ⅰ	CGクリエイター検定合格を目指し、テキスト学習とMayaによる実習を並行して行っていく。	1前	22	1	○			○		○		
6	○			Web制作Ⅰ	Webデザインにかかわる基礎的知識の習得と、制作ツールの技術習得を目指す。	1前	45	2			○	○		○	○	○
7	○			デザイン制作実習Ⅰ	さまざまなデザイン分野を概観しながら、基礎的なデザイン技法を学んでゆく。	1前	45	2			○	○		○	○	
8	○			DTPⅠ	DTP（デスクトップパブリッシング）にかかわる基礎的知識の習得と、制作ツールの技術習得をめざす。	1前	68	2			○	○		○	○	
9	○			造形Ⅰ	クリエイティブ職に必要な、基礎的美術・造形力を磨くために、デッサン、フリーイラストレーション、オブジェ制作を演習する。	1前	45	2			○	○			○	
10	○			テーマ制作Ⅰ	職業実践プログラムとして、外部企業等からの依頼を受け、1・2年合同でチーム制作する。	1前	45	2			○	○		○		
11	○			ビジネスソフトⅠ	Microsoft Word（もしくはExcel）の学習を通して、MOS資格取得のための基礎的知識と技術を学ぶ。	1前	45	1			○	○		○		
12	○			アニメーションデザインⅠ	アニメーションの基礎知識を修得する。また、2年生とともに、職業実践的なアニメーション制作を開始する。	1前	45	1			○	○			○	
13	○			就職対策Ⅱ	就職対策Ⅰの内容を踏まえ、面接指導や各種シートの作成法指導など、後期明けに本格化する就職活動へ向けた、実践的対策授業を行う。	1後	22	1	○			○		○		
14	○			ビジネス実務Ⅱ	ビジネス実務Ⅰの内容を受け、さらなる知識と、より高い資格の取得をめざす。	1後	23	1	○			○		○		

15	○		コミュニケーションⅡ	コミュニケーションⅠから更に進めて、より難易度の高い内容について考える力を養う。	1 後	23	1	○			○		○		
16	○		色彩概論Ⅱ	色彩概論Ⅰから更に進め、色彩検定2級の資格取得を目指す。	1 後	22	1	○			○		○		
17	○		検定対策Ⅱ	CG概論Ⅰで学んだ基礎的な知識と技術を、CG制作の実践の中で検証し、また、CGに関する各種検定試験に挑戦する。	1 後	22	1	○			○		○		
18	○		Web制作Ⅱ	さらなる知識の習得と、制作ツールの技術習得を目指しながら、アニメーションを含む各種コンテンツ制作に必要な知識・技術の習得もめざす。	1 後	68	2			○	○		○		○
19	○		デザイン制作実習Ⅱ	グラフィック、Web、映像、DTP、3DCG、アニメーション、サウンドなど、様々な制作領域の知識と実技を体験・学習する。	1 後	68	3			○	○		○		
20	○		DTPⅡ	実際の仕事場を見学したり、現時点での最新事情を外部担当者を交えながら学んでゆく。	1 後	45	2			○	○		○	○	
21	○		造形Ⅱ	造形Ⅰを更に発展させ、さらなる知識と技法を学ぶ。また、さまざまな造形物を制作する。	1 後	45	2			○	○			○	
22	○		ビジネスソフトⅡ	Word（もしくはExcel）の学習を推し進め、Microsoft Office Specialistのスペシャリストレベル取得を目指す。	1 後	45	1			○	○		○		
23	○		アニメーションデザインⅡ	引き続き基礎知識を修得する。同時に2年生とチームをつくり、職業実践的なアニメーション制作を行う。	1 後	45	1			○	○			○	
24	○		自由研究Ⅰ	自分が興味を持って学ぶことが出来る分野（グラフィック、Web、アニメーションなど）を選択し、研究形式で学習する。	1 後	22	1			○	○		○		
25	○		就職対策Ⅲ	就職活動最盛期の期間。さらなる実践指導を行うため、個別指導の密度を高める。	2 前	22	1	○			○		○		
26	○		色彩概論Ⅲ	色彩に関する知識をより強固にするため、一人ひとりが、与えられたテーマについてレポート制作を行う。	2 前	22	1	○			○		○		
27	○		検定対策Ⅲ	CGクリエイター検定合格を目指し、テキスト学習とMayaによる実習を並行して行っていく。	2 前	22	1	○			○		○		
28	○		プレゼンテーションⅠ	Microsoft PowerPointを学習し、MOS資格取得を目指すと同時に、ビジネスの場で必要なプレゼンテーションの知識と技術を磨く。	2 前	22	1			○	○		○		
29	○		Web制作Ⅲ	ホームページの制作やアニメーションの実制作を通して、学んできた知識と技術をしっかりと定着させる。また、実制作の現場を見学したり、現役制作者の考え方も学ぶ。	2 前	68	2			○	○		○	○	○
30	○		デザイン制作実習Ⅲ	デザイン制作実習Ⅱをより推し進め、より高度なデザイン制作を実現できるよう指導する。	2 前	114	4			○	○		○	○	
31	○		DTPⅢ	さらなる知識と技術の習得を目指す。またその実践としての学校案内作成の準備を行う。	2 前	45	2			○	○		○	○	

32	○		造形Ⅲ	2年生には、できるだけ自らが考えたものを制作物に反映させるよう指導する。使用する画材類も、紙から立体物まで幅広く使用する。	2 前	45	2			○	○		○	○		
33	○		テーマ制作Ⅱ	職業実践プログラムの1・2年合同チーム制作において、リーダーとして指導的立場で制作を指揮する。	2 前	45	2			○	○		○			
34	○		アニメーションデザインⅢ	アニメーション制作の基礎知識および技術を用い、職業実践的なアニメーション制作を行う。	2 前	45	1			○	○			○		
35	○		就職対策Ⅳ	就職内定者へは卒業までにしなければならぬことを指導し、未内定者にはさらなる個別指導を通して内定へ導く。視聴覚教材を使いながら、社会人へ向けての希望を膨らませる。	2 後	22	1	○			○		○			
36	○		色彩概論Ⅳ	色彩概論の集大成として、研究発表を行う。各自の興味に合わせ、テキストでは習わない内容を織り込みながら、個人あるいはグループで研究、プレゼンテーションを行う。	2 後	22	1	○			○		○			
37	○		検定対策Ⅳ	CGクリエイター検定合格を目指し、テキストとMayaを使った学習を継続するが、11月最終週の試験終了後は、Mayaツールについて研鑽する。	2 後	22	1	○			○		○			
38	○		プレゼンテーションⅡ	プレゼンテーションソフトⅠで学んだ基礎知識・技術を元に、実際に企画をつくり、それを観客側にプレゼンテーションする。	2 後	22	1			○	○		○			
39	○		Web制作Ⅳ	Webデザイン制作の集大成として、卒業研究と連動させる形で、オリジナルWebサイトをデザインする。	2 後	68	2			○	○		○		○	
40	○		卒業研究	2年間学んできたことの集大成。実際に使用することを目的に、データベースやWebデザイン、動画等にかかわる卒業制作のために必要な知識や技術を習得する。	2 後	204	7			○	○		○	○		
41	○		デザイン制作実習Ⅳ	デザイン制作実習Ⅲをより推し進め、より高度なデザイン制作を実現できるよう指導する。	2 後	45	2			○	○		○	○		
42	○		造形Ⅳ	集大成として、パネル制作（立体造形物）を行う。卒業制作と連動し、プレゼンテーションする。	2 後	45	2			○	○			○		
合計					42	科目			1800 単位（単位時間）							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：履修したすべての科目においてD（不合格）がないこと		1 学期の授業期間	14 週

（留意事項）

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。